

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果 (H28. 9/14~9/28)

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内で収集した大気1m³あたりの浮遊放射性物質の濃度(ミリベクレル/m³)を測定しました。※下段()内は検出限界値。

測定地点			9/14~9/21	9/21~9/28
小高区	川房公会堂 (川房)	Cs134	0.040 (0.019)	0.059 (0.017)
		Cs137	0.250 (0.016)	0.330 (0.017)
	金房小学校 (飯崎)	Cs134	0.059 (0.017)	0.016 (0.014)
		Cs137	0.320 (0.016)	0.130 (0.012)
	塚原公会堂 (塚原)	Cs134	不検出 (0.013)	不検出 (0.013)
		Cs137	0.066 (0.012)	0.059 (0.014)
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	Cs134	不検出 (0.014)	不検出 (0.013)
		Cs137	0.047 (0.011)	0.050 (0.013)
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	Cs134	不検出 (0.012)	不検出 (0.012)
		Cs137	0.022 (0.011)	0.023 (0.012)

【お知らせ】平成28年4月から、試料の採取方法が7日間の連続吸引に変わりました。

測定地点			9/14~9/21	9/21~9/28
原町区	横川ダム (馬場)	Cs134	0.037 (0.014)	0.057 (0.016)
		Cs137	0.250 (0.013)	0.420 (0.014)
	原町保健センター (小川町)	Cs134	不検出 (0.012)	不検出 (0.014)
		Cs137	0.058 (0.011)	0.068 (0.013)
	高平生涯学習センター (下高平)	Cs134	不検出 (0.020)	不検出 (0.017)
		Cs137	0.037 (0.011)	0.055 (0.013)
	市立総合病院 (高見町)	Cs134	不検出 (0.014)	不検出 (0.016)
		Cs137	0.051 (0.013)	0.079 (0.015)
	大原公会堂 (大原)	Cs134	0.022 (0.012)	0.024 (0.014)
		Cs137	0.110 (0.012)	0.140 (0.014)

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、放射能濃度が検出限界値未満の場合、「不検出」と判定されます。

★渡邊正己京都大学名誉教授 (市放射線健康対策委員会委員長)による解説★

大気浮遊じん放射能濃度は低く推移しており、最高値は、9月21日~28日の間に横川ダムで観測されたセシウム137の0.420mBq/m³でした。しかし、この値は、事故前の3年間に全国の浮遊じんに含まれていた放射能の測定範囲内に収まっており、健康影響に注意を払う必要性はありません。

ちなみに、この濃度の放射能を全て体内に取り込んだとしても、福島原発事故前に日本人が1日の食事で体内に取り込んでいたセシウム137の量(平均30mBq)の4分の1程度、全放射能の1万分の1にしかありません。